

次世代統合オフィスシステム “アラジンII”

1G-6

—ユーザカスタマイズ情報管理方式—

渡辺 淑子* 筒井 健作** 嶋田 浩之***

*中国日本電気ソフトウェア(株) **神戸日本電気ソフトウェア(株) ***日本電気(株)

1. はじめに

NECでは、今春落成したスーパータワー向けに統合オフィスシステム“アラジンII”を開発し、その製品化を進めている。オフィスシステムは企業内のあらゆる部門、あらゆる職種の人達が利用するシステムである。利用者が使う機能や利用頻度は各利用者ごとに大きく異なるため、利用者の利用形態に応じてメニュー選択時の動作などのユーザインタフェースを変更できる「カスタマイズ機能」はオフィスシステムには必要不可欠の機能である。本稿では、NECが開発した統合オフィスシステム“アラジンII”でのカスタマイズ情報の管理方式について述べる。

2. 従来の管理方式

オフィスシステムにおいては、ユーザがどのワークステーションでログインしてもそのユーザのカスタマイズされた環境で利用できることが期待される。そのため、カスタマイズ情報はサーバステーション上で管理される。通常、カスタマイズ情報とユーザとの関係は1対1となっている。(図1)

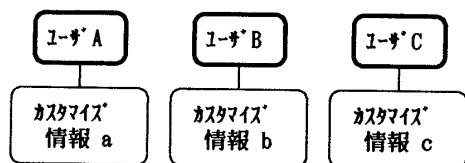


図1 1:1のカスタマイズ情報の管理モデル

ユーザがログインすると、そのユーザに対応するカスタマイズ情報がワーク

ステーションに転送されて、ユーザインタフェースがカスタマイズされる。

この管理方式では、ユーザ1に対してカスタマイズ情報が1つ存在するため、複数人数で同じカスタマイズをする際には、そのユーザ全部に同じカスタマイズ情報をコピーしなければならない。また、業務やオフィス環境の変更に対応してカスタマイズ情報を変更する場合、関係するユーザのカスタマイズ情報をすべて個別に変更しなければならないため、運用性がわるい。

3. 運用性の向上

1つのカスタマイズ情報をN人で共有できるようにすることにより、運用性を向上させることができる。(図2)

この管理方式では、1つのカスタマイズ情報を変更すれば、それを利用しているユーザのカスタマイズ情報が一斉に変更される。

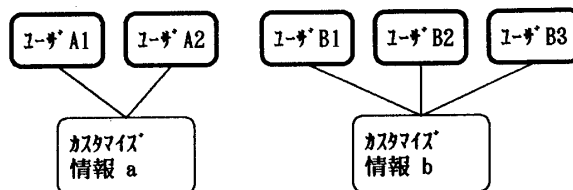


図2 1:Nのカスタマイズ情報の管理モデル

4. 柔軟性の確保

システム内で複数ユーザに共通のカスタマイズ情報を用意することにより、「役員」用、「秘書」用というようにカスタマイズ情報を集中管理することが可能となる。

しかし、同じ「担当」でも、「営業

The Next Generation Integrated Office System -The Method to Manage the Information on the User's Customization-
Yoshiko Watanabe*, Kensaku Tsutsui**, Hiroyuki Shimada***

*NEC Software Chugoku, Ltd **NEC Software Koube, Ltd ***NEC Corporation

部」の「担当」と「経理部」の「担当」では業務内容が違うため、オフィスごとに別々のカスタマイズ情報を管理できるようにすることも必要である。

さらに、自分専用のカスタマイズ情報を持ちたいユーザの要求に答えるために、ユーザ専用のカスタマイズ情報も用意することで、柔軟なカスタマイズ運用が可能となる。

5. 実行時解決変数の導入

カスタマイズ情報を共有化する上で、もう1つ考慮しなければならない問題として、ユーザの環境差の吸収がある。

例えば、ユーザA、ユーザBの所属オフィスがそれぞれ「EIGYO」、「KEIRI」の場合、ユーザA、ユーザBの所属オフィスの受信メールボックス内の一覧を表示するというメニュー定義は、それぞれ図3の①、②のようになる。①と②の記述が異なっているため、ユーザAとユーザBが同じカスタマイズ情報を利用することができない。

この問題を解決するために、「所属オフィス」や「ログインユーザ」を表す変数を導入し、実行時にログインユーザの情報をもとにして、変数を解決できるようにする。「所属オフィス」を表す実行時解決変数「.OFC」を使って①、②の記述を書き直すとどちらも③となり、ユーザAとユーザBが同じカスタマイズ情報を利用することができる。

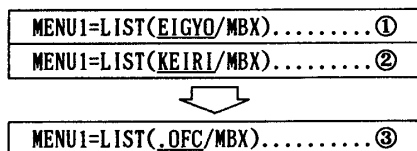


図3 実行時解決変数の使用例

6. 実装

アラジンIIでは、この方式を実装するにあたって、カスタマイズ情報とユーザとの対応付けをカスタマイズ番号

を使って行った。カスタマイズ情報に1から255までの番号をつけ、この番号によりカスタマイズ情報の保管場所を図4のように決定する。カスタマイズ番号1をユーザ専用、2から55をオフィス内共通、のこりをシステム内共通カスタマイズ情報とし、それぞれユーザの個人環境、オフィスの共用環境、システム共用環境に保管する。

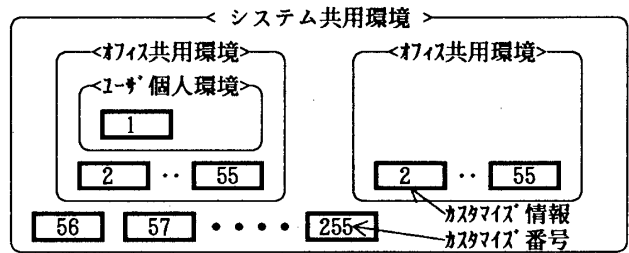


図4 カスタマイズ情報の保管方法

ユーザが利用するカスタマイズ情報の番号は、ログイン時に返却されるユーザ属性に記憶し、ログイン直後にその情報を使って取得するカスタマイズ情報を決定する。カスタマイズ番号が1ならそのユーザの個人環境から、2から55ならそのユーザの所属オフィス環境から、それ以外ならシステム共用環境からカスタマイズ番号に対応するカスタマイズ情報を取得する。この方式により、個人単位からシステム全体のカスタマイズまで、状況に応じて運用性の高い柔軟なカスタマイズが可能となる。

7. おわりに

運用性を重視したカスタマイズ管理方式について報告した。この機能は現在スーパータワーで有効に活用されている。

8. 参考文献

- 山崎他：統合オフィスシステム「アラジンII」, NEC技報 Vol.43 No.7/1990
- 山崎他：日本電気本社ビルのO Aシステムを支える「アラジンII」, NEC技報 Vol.43 No.6/1990